


**日本と海外の絵本賞**

日本だけでなく海外にもいろいろな絵本の表彰があるので、次年度の新刊本購入時の参考にしてください。



(日本)

賞の名前・創設年	説明	受賞絵本等名
講談社絵本新人賞 1970年	講談社70周年を記念して絵本出版界に新風を吹き込み、新しい絵本創作の機運を呼び起こす作品を期待して創設した賞。幼児・児童を読者対象とした自作未発表の創作絵本作品。	・ぼくおしっこできないの ・イバラードの旅 ・ばあちゃんのえんがわ ・ゆき など
日産 童話と絵本の グランプリ 1984年	大阪国際児童文学館が創設。人々の児童文学に対する関心を高めながら童話や絵本の創作活動を促し、児童文学の発展を目的とする。アマチュア作家を対象とし新人作家の登竜門と称されることもある。	・たいふうがくる ・スイカぼうず  ・ハルとカミナリ ・白い道 ・かかしごん など
けんぶち 絵本の里大賞 1991年	絵本の里剣淵町の知名度を高めることで、絵本の里創りに対する理解と協力を深め、児童文化の発展に寄与することを目的に創設。大賞は「絵本の館」の来館者投票によって決定。	・さよならママがおばけになっちゃった！ ・くろくんとちいさいしろくん ・もうぬげない など
日本絵本賞 1995年	全国学校図書館協議会と毎日新聞が主催し、優秀な絵本を顕彰することにより、子どもたちの絵本読書がより盛んになることと、絵本出版の発展を願って創設。絵本芸術の普及、絵本読書の振興、絵本出版の発展に寄与することを目的とする。特に優れた絵本に日本絵本賞大賞、その他日本絵本賞や読者賞などある。	・しらんぷり ・きつねにようぼう ・でんしゃえほん ・けんかのきもち ・なつのいけ ・ないた など
JBBY賞 2009年	JBBY（日本国際児童図書評議会）が日本代表として国際的な賞に推薦する日本の子どもの本や作家に賞を贈ることで、その作品や作家を国内でも広く知ってもらうために創設。絵本原画部門などあり、2年に一度表彰し、国際アンデルセン賞などに推薦。	ブラティスラヴァ世界絵本原画展へ推薦した作品 ・しろねこくろねこ ・たんぼぼ など IBBYオーナーリストへ推薦 ・おりの中の秘密 など

他にも、「MOE絵本やさん大賞」、「リブロ絵本大賞」、「be絵本大賞」などあります。

(海外)

世界的に権威があるといわれる「世界3大絵本賞」として「国際アンデルセン賞」「コルデコット賞」「ケイト・グリーンナウェイ賞」があり、その他、「ジョン・ニューベリー賞」「ドイツ児童文学賞」「ブラティスラヴァ世界絵本原画展」などいろいろあります。

賞の名前・創設年	説 明	受賞者, 受賞絵本・図書
国際 アンデルセン賞  1956年	国際児童図書評議会により創設された子どもの本の分野における最高の国際的な賞。その選考水準の高さから「小さなノーベル文学賞」ともいわれ、世界中の児童文学の質の向上にはかり知れない影響を与えている。 作家や画家を顕彰。2年に一度授与。 画家賞は1966年に創設。	作家賞 ・まど みちお(どうぶつたちなど) ・上橋菜穂子(精霊の守り人など) ・角野栄子(魔女の宅急便など) 画家賞 ・赤羽末吉(スーホの白い馬など) ・安野光雅(ふしぎなえなど)
コルデコット賞  1938年	アメリカ図書館協会児童部会(ALSC)が主催し、アメリカでその年に出版された最も優れた子ども向け絵本を描いた画家に、毎年授与している賞。19世紀イギリスの絵本画家ランドルフ・コルデコットを記念して名付けられた。ジョン・ニューベリー賞と並び、アメリカで最も権威ある児童書の賞。	・ブライアン・フロッカ (走れ!!機関車など)  ・ジェリー・ピンクニー (ライオンとねずみなど) ・モーリス・センダック (かいじゅうたちのいるところ など)
ケイト・ グリーンナウェイ賞  1956年	賞名は著名な絵本作家ケイト・グリーンナウェイにちなみ、英国図書館協会によって設立された賞。最初に英国内で出版され、英語で書かれた作品を対象として、優れた子どもの本の絵に贈られる賞。絵本挿絵に与えられる賞としては、コルデコット賞と並んで権威をもつ。	・うみべのまちで ・こどものなかま ・シャクルトンの大漂流 ・怪物はさきやく ・不思議の国のアリス ・ブラック・ドッグ など
ドイツ児童文学賞  1956年	旧西ドイツ内務省によって創設された児童文学賞。ドイツ児童図書賞として創設され、児童と青少年のための優れた図書に授与。絵本部門、児童書部門など4部門がある。ドイツで最も権威のある児童文学賞。	・ミスターワッフル! ・かあさんはどこ? ・どこいったん  ・ガルマンの夏 など
ブラティスラヴァ 世界絵本原画展  1967年	スロバキアの首都ブラティスラヴァで2年に1度開催される世界最大規模の絵本原画コンクールで、ユネスコと国際児童図書評議会の提唱により創設。絵本原画を審査対象に、一つの国から最大15名の画家しか出展できない。国際アンデルセン賞と並び権威ある賞で、グランプリのほか、金のりんご賞などある。	グランプリ ・ふしぎなたけのこ ・よるのようちえん ・あめふらし 金のりんご賞 ・ちからたろう ・銀河鉄道の夜 など

## 4月生まれの文学者



丘 修三（おか しゅうぞう 本名 渋江孝夫）と「ケンと健一」

1941年4月5日 鹿児島県鹿児島市生まれ

丘氏は、4歳から19歳まで15年間熊本の甲佐で過ごし、小さいころは野山で遊ぶだけでなく、畑の手伝いをしたり山へたきぎを拾いに行ったり、子守をしたりして過ごしました。

東京教育大学(現 筑波大学)で障がい児教育を専攻したのは、教師をするなら普通の教育でない方が面白いだろうと思ったからで、耳が聞こえない子どもに関わる教師をめざしたそうです。

大学卒業後、養護学校の教師を勤め、1991年に25年間務めた養護学校を病気で退職し、本格的な執筆生活に入りました。

「ケンと健一」を書くきっかけは、42歳の時2ヵ月ほど入院をした際、「兎の眼」を読んで感動し、自分も障がい児を主人公にした作品を書いてみたいと思ったからでした。障がい者に対する差別感や偏見をテーマに、それまで出会った障がい児やその保護者から学んだことをもとに書きはじめ、退院する頃は原稿用紙400枚程の作品になり、1983年に出版しました。

出版後、書くことがおもしろくなり、勤務のかたわら土曜日の午後、高田馬場の文学教室に通ったり、戦後の障がい児がでてくる作品をかたっぱしから読んだりして勉強し、2ヵ月に一作をコンクールに応募しました。

作品は、「ぼくのお姉さん」(日本児童文学者協会新人賞、坪田譲治文学賞、新美南吉文学賞)、「少年の日々」(小学館文学賞)、「口で歩く」(産経児童出版文化賞ニッポン放送賞)などあります。

荻原 規子（おぎわら のりこ）と「空色勾玉」

そらいろまがたま



1959年4月22日 東京都渋谷区生まれ

荻原氏は東京のはずれで、地元にお祭も何もない地域で育ちました。子どもの頃から西洋のファンタジーが好きで、高校の頃には自分が読みたい本を書こうと思っていたそうです。

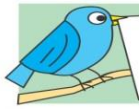
高校の国語教師の影響を受け早稲田大学教育学部国語国文学科に入学しましたが、書きたい物語が長すぎて終わらせることができず、自分だけでは書けないと思い、2年の春から早大児童文学研究会(児文研)に参加して、就職活動の時期に初めて3部構成の物語「西の善き魔女」というレポート用紙10冊分の長編作品を書き上げました。

就職するにあたって荻原氏は、これほど情熱を持てるものはどの業界にもないと感じましたが、プロの作家になれると考えていなかったそうで、仕事のやりがいより余暇を重視し地方公務員になりました。

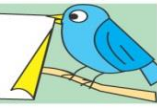
「空色勾玉」(日本児童文学者協会新人賞)を書くきっかけは、福武書店に入社していた元児文研の仲間から自店で児童文学シリーズを創刊する計画があるので物語を書かないかと依頼を受けたからで、依頼から2年後に原稿が完成し、1988年に小説家デビューしました。後に、「白鳥異伝」「薄紅天女」と合わせ、勾玉三部作、勾玉シリーズと呼ばれました。

荻原氏は、意図的にファンタジーを書こうと思っておらず、「こういう本が読みたい」と思ったものを書いた作品がたまたま“ファンタジー”と呼ばれるそうです。

作品は、「これは王国のかぎ」(産経児童出版文化賞)、「風神秘抄」(小学館児童出版文化賞、日本児童文学者協会賞、IBBYオナーリスト・文学作品部門賞)などあります。



## ♪ 福岡アジア美術館「4月の案内」



\*\*\*\*\*



### \* アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ

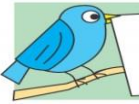
12日(日), 14日(火), 26日(日), 28日(火)

・時間 11:30~12:00, 13:00~13:30

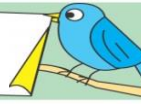
・場所 7階「キッズコーナー」(申し込み不要)

### \* 絵本の展示

「おうさま・おひめさまがでてくる絵本」のミニ特集をします。(閲覧のみ)



## ♪ 福岡市総合図書館「4月の案内」



\*\*\*\*\*



### \* 毎月のおはなし会

4日(土), 5日(日), 11日(土), 12日(日)

18日(土), 19日(日), 25日(土), 26日(日)

・時間 土曜日: 14:10~14:25 赤ちゃん向けおはなし会

14:30~14:50 幼児向けおはなし会

25日

14:30~15:00 幼児から小学生向けおはなし会

日曜日: 5日, 12日, 19日

14:30~15:00 幼児向けおはなし会

15:15~15:45 小学生向けおはなし会

・場所 「こども図書館 おはなしの家」

### 26日(子どもの日 特別お話会)

○時間 14:00~15:20

○場所 第1会議室(幼児向け), 第2会議室(小学生向け) ※どちらも3階

○申し込み不要 参加無料

### \* こども図書館の本の展示

「わくわくドキドキ」する本を集め展示します。(貸出可)

### ☆ あとがき

丘氏のペンネームの「丘修三」は、小学生の娘の担任の名字が丘で、その名字が簡単な字画で、音もいいなあと思ったので、その名をいただき、「世の中、オカシイゾ」をもじって決めたそうです。また、荻原氏の原稿には校正がほとんど入ることがありませんが、作品の最初から緻密な構成があるわけではなくラストだけが何となく見えているようで、どのようにたどりつくかわからないまま書き進めるうちに、最初に想定していたラストのイメージが変わることもあるということです。

ペンネームの付け方や作品の作り方など、作家によって違ってとても興味深いと思います。

発行: 福岡市教育委員会 生涯学習課

電話: 092-711-4655 FAX: 092-733-5538

## 図書館員のひみつの本棚 第167回

今月ご紹介する本の収益は、東京子ども図書館の東北支援「3.11 からの出発」の活動資金となります。(『こどもとしょかん 2012年春号』東京子ども図書館 より)

### 『うれしいさん かなしいさん』

まつおか きょうこ/さく・え 東京子ども図書館 2012年 ¥1000 (税別)

#### <お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 低学年☆☆☆ 中学年☆ 高学年—— 中学生——  
高校—— 一般——

(☆が多い年齢の子どもにお勧めです。)

#### <本の紹介>

あるところに“うれしいさん”がいました。朝起きると、天気がよいので嬉しくなって公園に行こうとしたのですが、玄関で頭をぶつけて“かなしいさん”になってしまい、でも、親切なおばさんが優しくしてくれて、また“うれしいさん”に…。

あるところに“かなしいさん”がいました。朝、雨が降っていたので悲しんでいたのですが、郵便で素敵なプレゼントが届いて“うれしいさん”に。でも、プレゼントの本が悲しい話で、また“かなしいさん”になってしまい…。

この本は、前から“うれしいさん”、後ろから“かなしいさん”のお話が始まって、真ん中で二つのお話が出会います。

#### <子どもに手渡す時のポイント>

東京子ども図書館の松岡享子氏の手作りぬいぐるみから生まれた絵本。

簡単なストーリーですが、聞いていると、いつの間にか笑顔になるおはなしです。

前から読んで、後ろから読んで、真ん中で出会うという面白い作りになっているので、読み聞かせのプログラムに入れても楽しんでもらえます。私は、前からうれしいさんの話を読んで、一旦本を閉じ、今度は後ろからかなしいさんの話を読み、最後に真ん中の観音開きのページを読むとスムーズに読めました。子どもたちも楽しんでくれました。5分程度で読めます。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。

ぜひ手にとってみてください。